Computex[®]



CodeRecorder(コードレコーダー)は、ターゲット・プログラムの実行履歴を見える化することで、デバッガでは見つ けにくいバグを発見し、再現デバッグまで行えるツールです。

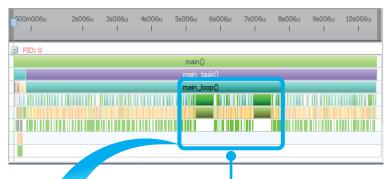
動的テストツール

CodeRecorder CR-200



いデバッグ体験 今までにない新し

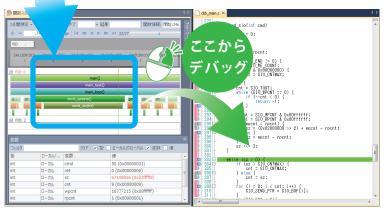
ログラムの見える化で異常ポイントを発見!



プログラムの実行履歴を関数レベ ルでグラフ化。関数の呼び出し構 造と実行時間が見える化されます。 デバッガでは見つけにくい異常ポ イントを瞬時に発見できます。

実行時間が明らかにおかしい!

/ 「ここからデバッグ」で再現デバッグ開始!



グラフの異常ポイントを右クリック[©] し、「ここからデバッグ」メニューで 再現デバッグが可能。

再現デバッグとは?

実行履歴のデータを使って、Cソースの <u>逆</u>ステップ実行や、変数値の変化を再現 することにより、異常ポイントを繰り返 デバッグできることをいいます。

プログラムの見える化から再現デバッグへ

関数の見える化

関数の実行履歴をグラフ表示します。意図しない呼び出しや、時間が異常な関数を簡単に見つけることができ、そこから再現デバッグが可能です。RTOSやLinuxに対応、タスクやスレッドも見える化されます。関数検索やマーク設定、2点間の時間計測など、デバッグに役立つ機能がそろっています。

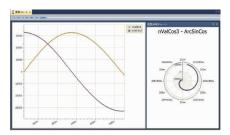
動的メモリの見える化

動的メモリの使用状況を監視しグラフ表示します。メモリの確保や解放が一目でわかるので、 異常なメモリ確保を見つけることが容易になります。また、メモリ・リークや多重解放などの 異常ポイントを検出し、そのポイントから再現デバッグを行うことも可能です。



変数の見える化

変数の値の変化をグラフ表示します。変数値を見える化することで、バグの原因となりそうな 突出した値を確認することができます。値の検索も簡単に行えますので、値が変更されたポイントを表示し、そのポイントから再現デバッグを行うことも可能です。



CodeRecorderはデバッグだけではありません

攻めの品質アップを 具体化するカバレッジ機能

パフォーマンス解析で 速度を上げる!

コードの通過率でテストの進捗を把握する

ソース単位や関数単位でのC0/C1カバレッジ率を確認できます。テストによってソース・コードの何パーセントが通過したかを把握することができ、未通過のテスト項目を追加することで、品質向上を図ることができます。



関数の実行時間計測でボトルネックを発見

関数でとの実行時間や呼び出し回数、最大、最小、平均の実行時間を計測し表示します。呼び出している子関数の割り合いを円グラフで表示することや、関数のコールグラフから、ボトルネック関数を見つけることも可能です。



ターゲット接続が簡単

接続は高速データ通信のメモリ・バスと、最少2ピンで接続できるGPIOを選択可能です。







メモリ・バフ・インターフェーフ (

·7 GPIOインターフェー

Computex*

株式会社コンピューテックス 営業部 TEL 075-551-0528(代) FAX 075-551-2585 E-MAIL sales@computex.co.jp

https://www.computex.co.jp/

- ■本製品の内容、および仕様に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ●COMPUTEXは株式会社コンピューテックスの登録商標です。
- ●その他、記載されている製品および会社名は、各社の商号、登録商標または商標です。